

## メッセージアウトライン 創世記7:17～24「大洪水Ⅱ」

[17-18]「大洪水は四十日間、地の上にあった。水かさが増して箱舟を押し上げたので、それは地から浮き上がった。水がみなぎり、地の上に大いに増し、箱舟は水面を漂った」

「聖書はすべて神の靈感による」(Ⅱテモテ3:16)ことを信じる信仰者であっても進化論に立つ地質学者や古生物学者の影響を受け、創世記の解釈をそれに合わせようと妥協していることがある。

ノアの洪水の解釈もその一つである。このような立場の人々はノアの洪水は全世界、全地球的に起こった洪水ではなく、ユーフラテス川などの中東の川の大氾濫によって起こった局地的洪水であると主張する。それゆえここでは、それは当時の全世界を滅ぼした大洪水であったか否かということを検証しなければならない。

①「大いなる淵の源がことごとく裂け、天の水門が開かれた。大雨は四十日四十夜、地に降り続いた」(7:11~12)「大洪水は四十日間、地の上にあった」(17)との表現は単なる川の氾濫の記述としてはどう見ても誤った印象を与えるし、誇張した表現である。著者はこの洪水が全世界に及ぶものであるという意図をもって記述している。

②この大洪水はヘブル語で「マップール」ということばであり、これはノアの洪水にだけ用いられていることばである。局地的洪水を表わすことばではない。

③箱舟の高さは三十キュビト(約13m)であり(6:15)、多くの動物たちを積んだ舟を地から浮き上がらせるのには少なくとも水深は6メートルになっていたと思われる。しかもそこは川や海の近くではなく、箱舟を造るための木材が豊富にある山の近く(すなわち標高が高い)であったであろう。

そこまで水が来ていたのである。

④洪水が局地的なものであったに過ぎないというのなら、単に水面を漂うための箱舟の建設や必需品や食料の蓄えなどは全く愚かなことで、それらすべては時間と労力、費用の無駄遣いであったであろう。ノアや動物たちにとってはそのような局地的な洪水が来る前に、その地域から別のところへ移動すればすべては解決することになる。しかし、神はそのようには言われず、箱舟を造り、それに入るようにと命じておられる。(6:13~22)

[19-20]「水は地の上にますますみなぎり、天の下にある高い山々もすべておおわれた。水はその上さらに十五キュビト増し加わり、山々はおおわれた」

⑤「水はその上(天の下にある高い山々の上)さらに十五キュビト(約6.6m) 増し加わり、山々はおおわれた」という記述は、たぶん船の喫水(水面下の部分)が十五キュビトであり、船が漂いながらどの高い山の頂上部分にも接触しなかったのがこのような表現になったと思われる。でなければ、ノアとその子たちが測り縄などで測ったか。しかし、舟の戸口は神によって閉ざされており、舟の上部一キュビト以内のところに天窓が設けられていただけであるので、荒れ狂う洪水の中で水深を測ることは困難であったであろう。

⑥ではこの洪水は標高8,848mのエヴェレスト山をも覆ったのかという疑問が出て来るが、現在の世界の山脈はノアの洪水に伴う地球の大激変による地層の褶曲により隆起したものと考えられ、ノアの時代の山々が今もそのままの高さで存在しているということではない。また当時の山々は

もっと低かったとも考えられる。さらにエヴェレスト山の山頂部分から化石も発見されている。化石は急激な土砂の堆積の結果、生物が腐敗する暇もなくそのままの形で残され石化したものである。これはかつてエヴェレスト山を構成していた地層が水中にあったという有力な証拠である。

[21-24]「こうして、地の上を動き回るすべての肉なるものは、鳥も家畜も獣も地に群がるすべてのものも、またすべての人も死に絶えた。いのちの息を吹き込まれたもので、乾いた地の上にいたものは、みな死んだ。こうして、主は地の上の生けるものすべてを、人をはじめ、動物、這うもの、空の鳥に至るまで消し去られた。それらは地から消し去られ、ただノアと、彼とともに箱舟にいたものたちだけが残った。水は百五十日間、地の上に増し続けた」

⑦「こうして、地の上を動き回るすべての肉なるものは……死に絶えた」とあるが、局地的洪水ならば、そこに住んでいるいろいろな動物の大部分は、水かさが増してくるたびに、そこから逃げ出さずか、また鳥ならば飛び去ることができる。しかし、全世界に及ぶ洪水の場合はこのようなことは不可能であった。

⑧「すべての人も死に絶えた」…局地的洪水の場合、大部分の人は逃げられる。低地から高地に逃げるか、あるいは洪水の及ばない遠方の地域へ移動すればよい。しかも当時はアダム以来の長い年月がたっており地上の至る所に人は住んでいた。しかしどこに住んでいたとしても、人も洪水によって死に絶えたのである。

⑨「いのちの息(ルアハ)を吹き込まれたもの」には人や動物が含まれ(2:7,6:17)、「生けるもの(イェクーム)すべて」とはそれ以外の動物や植物などのことを指していると思われる。事実、神は「彼ら(人)を地とともに滅ぼし去る」(6:13)と言われている。人も動物も植物も根こそぎ地上から滅ぼされるのである。局地的な洪水ではそのようなことは起こりえない。

⑩局地的な洪水で百五十日間も、地の上に水が増し続ける(24)ことはない。

⑪以上に加え、主イエス・キリストはノアの洪水の事実とそれが世界的規模であったことを認めておられ、さらにこの洪水を主が世をさばくために再び来られる時のしるしであり、型であるとされている。→マタイ24:37~39、ルカ17:26~27

私たちもこの大洪水を遠い昔に起こった出来事で、今の時代には何の関係もないと思っはならない。主はノアの時代と同様、今もすべての人が悔い改めて主に立ち返ることを望んで忍耐して待っておられるのである。→Ⅱペテロ3:3~13、Ⅱコリント6:1~2